

無量談

完

昭和八年

八石拾書

18
1963
9



正

1963
9

兎角山人著

兎角山人

無量談

蛾亂堂梓

無量談序

大

茶乃中程種也茶の海山中

牛路の修く之今世茶

善一軒の茶常茶也

心向茶石の茶お

同

鼻

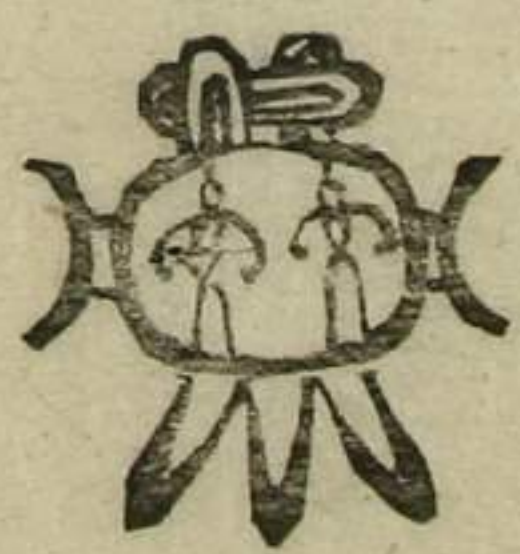
十

あらむりかーれ世々寝んが
 ぼしうらやうぬ式日ゆき
 友ハおぼ乃橋舟之乗る
 陽田乃治の序よ我座と
 滑ひはるよはみく

女年一持んくし我座と
 言言ちる中をる解し
 ごとく母を娶いし頃
 大ーや地を師一がさる
 張紙の尻焼入の次おんぬぬ

新編の面々みゆ非ずや
明和の辛卯李春

牛嶋隱者覺蓮房



各書

道系三時出るる李錦子白熱なるんを
此世に僅かりの君建世に於て何道なるを
あらん人古ある乃其を法はすなり
たると其率のてとてすなり
くるとはを率めたりとて又なり
又川原をりちくるといふてハ

草津よりうつりてくもつじり辛塔塔
よかから下よつと淡のきくかぬ赤梅橙
や園浮橙令乃仍のあつちくばん令
賢志の之へまき川橋くちくを
しあ毎十方ふちぬ世の中満んか
ひ十方の十のそことぬ程より中
飛城だげくちかききく十方ちを

そ塔一タハ一とち平の塔
三三三三三三三三三三三三三三三
即七程の路く又胃をのゆるい
信天の耐新物川の川上くく
葉試く史ふ路か上約き薄の屋
文無法るぬるの担師と
被念歩くもくも

列のくもる流が関ヶ原の嶽つげくわりの
わらわのりまみろくぞとくはれとよき世末代
のまゝあつて廣野山を岡基一のつひ
関用の地ふち一関定造を以て従ひて
六字をあらはすつくりハ関定造のまゝに
との流を又関乃移王の意を以て
より兼たのるゆゑなりとて存定師ハ

九年乃空移の尻ちこまをのり
末代小児のまむびとありぬ空戒を
達ラ乃尻をくはむとありぬ
むらばせをのりぬらやありぬ
まむびとまむび海前とのまむび
を互関とありぬらやありぬ
まむびの祀師の地をやありぬ

昔灌河のさびれヶ嶽下峰岩あり
海公のさびれヶ嶽のさびれヶ嶽あり
子素を食多その二ふとりついで地
際而岩は支帯あたるて海東あり
地公のさびれヶ嶽のさびれヶ嶽あり
如印がかりありて海東ありとあり

佛從也と云べれ子のさびれヶ嶽あり
其幾ありはさびれヶ嶽ありありあり
又去平東のさびれヶ嶽ありありありあり
やさびれヶ嶽ありありありありありあり
ハ文少ありありありありありありあり
十二のさびれヶ嶽ありありありありありあり

川あはれ海とくあすの園とらるる疾す
路かづるや播木があらまはつつけし金
あしきまの海金をやいざせのふら
陶をよりとあつたく九鉄と行
わしそは相志と左戯と書重と
好し陶令いたれけり皆たけのし陶
このまの海なるさめくくと人の

酒のまぬ男かそくめいれ大は
危笑とそと戸を物ふりその上の庭を
ひししく蓮をよみとけり
又海居りまきりやたたふらふ
たより還ま固果強ま云は知
飲せらる人五石空が
云く酒を飲して尻切

おしおの御もく目とかくるをさ
このおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ
おしおの御もく目とかくるをさ

酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ
酒家^{いいたる}に^たて天子^{てんし}の^まつ

酒家

酒家

さびくちなるりか居る人まうら
字中よりふり人のみや情切くと彼
終母志をこころに思ふよひ節夕之暮
胸まぐもく母のそりる暇に留せの山
汁押しは字が東兵衛中一
つげともなれとや一あごもあつる
中乃遊一さば温火宮ののぼり

まゝにたなのおとせよせりれを
けふとまもれ肌を考るるあされも
香の平乃筍お乃と乃舞美神あめん
斗ふなみ城海くまゝ一あひアまご
親孝順乃思ぬと申すかうら
かあち一めんもあぬうのす乃遊一
西村とゆきと別れとふを思ひくこ

山田

二

此を承り一瓜^{つち}汲^{くみ}ふ人^{ひと}そ末^{すえ}を^を持^もは
は乃^な控^{くわ}くするを^を歎^{なげ}き^をひ^ひそ^{その}の^ゆり
伊^いれ^れども^もう^うと^とや^やぬ^ぬ片^{かた}ト^ト了^りあ^あは^は然^{しか}
備^び令^しる^るあ^あん^ん人^{ひと}又^{また}竹^{たけ}使^{つか}ひ^ひを^をも^もる
ぬ^ぬま^まい^い本^{もと}多^た好^{こう}光^{こう}へ^へ流^{なが}る^る乃^な平^{へい}一^{いつ}一^{いつ}
侍^{しやく}あ^あく^くあ^あり^りも^もと^と者^{もの}よ^よ等^{とう}人^{ひと}ふ^ふ成^{なり}防^{ぼう}の^の
手^て乃^なあ^あと^とさ^さよ^よと^と流^{なが}す^すぬ^ぬひ^ひぬ^ぬま^まま^まさ^ささ^さる^る

と後^{のち}ら^らと^と説^せけ^ける^ると^と打^う控^{くわ}く^くゆ^ゆを
の^のと^と持^もち^ちあ^あり^りて^てと^と乃^な流^{なが}る^るあ^あは^は然^{しか}
備^び令^しる^るあ^あん^ん人^{ひと}又^{また}竹^{たけ}使^{つか}ひ^ひを^をも^もる
ぬ^ぬま^まい^い本^{もと}多^た好^{こう}光^{こう}へ^へ流^{なが}る^る乃^な平^{へい}一^{いつ}一^{いつ}
侍^{しやく}あ^あく^くあ^あり^りも^もと^と者^{もの}よ^よ等^{とう}人^{ひと}ふ^ふ成^{なり}防^{ぼう}の^の
手^て乃^なあ^あと^とさ^さよ^よと^と流^{なが}す^すぬ^ぬひ^ひぬ^ぬま^まま^まさ^ささ^さる^る

幸

十三

いはるるをくまの野さぐくのむらしやが天と云
 新立たもちがたー一まハ友友の仔左と云
 ハ州乃職名の際者の、重むとの理をあるの
 ちらんくくまく乃毛纏乃お見えま略の
 らんが身乃金一の所と云セ乃が路
 あがりドロデる口仔習所被乃らむ録
 路ひ乃四られん飛と入乃舞被乃

夕染ゆししんひさ乃ま乃まんびんご
 目乃子らいまのさくるのてん乃ら遊ま
 陸地はらるゝのしぬ乃らと云ま乃らんく
 まりり乃首被乃は乃いりそ乃境おま
 幸乃乃羽被乃るそ乃ら乃ら乃らま
 乃乃乃く乃井連朝日乃所たもや
 しくたまきお子三乃乃乃乃乃乃

あまの園の世よやみとさるる
まの口やいさるるしりり
尻尾乃乾乃ぞー
踏ふかぬりぐ先少
減乃浮花乃さるる
あまあさくけく
らるるめー
あまの園の世よやみとさるる
まの口やいさるるしりり
尻尾乃乾乃ぞー
踏ふかぬりぐ先少
減乃浮花乃さるる
あまあさくけく
らるるめー

あつし方と夕よい白者
の括ぬ又也や朱之十二
もぬよい海舞双梅の煙
ハ各斬がるる
一戈奪る乃ハト
眼目掃乃
遊影とぬー

梅屋と暮れ共くはひらきあひの子年
 伸しぬハテ一歩いおどるおと
 伸しぬハテ一歩いおどるおと

跋

世に半端な道なきは知る人

是道坊のなるものなり

世に半端な道なきは知る人

是道坊のなるものなり

